



松門和歌集

5047



門
號 5047
卷



昭
和
二
十
二
年
三
月
三
日
寄
言
田
早
苗
氏
贈

松門傳歌談
作歌故實
四



<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>
<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>
<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>
<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>
<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>
<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>
<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>
<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>
<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>
<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>	<i>Handwritten notes in a foreign script, possibly Latin or Greek, with red initials.</i>

○ 氣功 陳句

東地 功氣 功氣 又行

歌をいふる事

高きものより

低きもの

より

難し

かゝる

歌はよきもの

より

万葉の歌は

親の乳母のあ

あう句

えがれ

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句

あう句のあう句

あう句

あう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句

あう句

親の乳母のあ

あう句

えがれ

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句

あう句のあう句

あう句

あう句

あう句のあう句

あう句のあう句

あう句

あう句

印子

漢方ちりき人の出録

初摺めお取捨

万葉集字子ぶづ

三代集のり 同相付授

八代集

右代の集字のり

初摺

家集

字系五部のみ

白氏文集字のり

明月記のり

白表紙

のり語と強をのり

見掛のり

おのり

おのり

よ

後学

河内からとらえよあし

おのろ子ふ子がべとらふは

区字 各親 和お ー

人のあはさし

人のあはさしとらふは

おのろあし

おのろあし

おのろあし

おのろあし

和おをとおく

おのろあし

おのろあし

おのろあし

好い 好い おのろあし

おのろあし

おのろあし

おのろあし

おのろあし

あのみ

制の印

界柱の印

あのみを

あのみを

標紙

経尺 色紙

和紙

三年

〇

あのみ

毎月

Blank lined area on the right page.

〇 初めのうらな

あはれあはれ サカ おろそかにし

よめあはれ

Blank lined area on the left page.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

○ 龍引

毎月 卯 十三日 壬午 卯 十三日

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

Blank lined area on the right page.

〇かへん

接世性徳の子家造院をさす
まのすはるすり 西のあかた
あかたさかた子かへん

水恒脈目十九 九

Blank musical notation area with vertical lines.

○ 歌学大成
卷之十一

Blank musical notation area with vertical lines.

○ 多乳の鯨の骨

東地州すきよのまゝのりてあるか
磯のあまのりといふは
三

○この件は所好の
事也別は是也
○

毎月抄三才

○ 記すも
わらも
いり
候り
かき
し
は
り
の

校字大蔵

校字大蔵

○早歌

應仁の記上高方紀と比一多の
新保の子の御下世能のとむと
ゆりし多御は内多の
も多を早歌とゆりた
多の多一たると
つた多の多

Blank lined area on the right page.

○連初

信世徳の
くるとこ
まうてんし

Blank lined area on the left page.

Handwritten text in vertical columns on the left page of an open notebook. The text is written in black ink on aged, yellowed paper. The columns are separated by vertical lines. The text is written in a cursive style, likely Japanese or Chinese characters. The rightmost column contains a large circle followed by several characters. The other columns contain more characters, some of which are less legible due to the cursive style and fading.

Blank lined page on the right side of the notebook. The page is yellowed and shows signs of age. It features vertical lines for writing, but no text is present.

Small handwritten text on the left edge of the left page, possibly a page number or a note.

Small handwritten text on the right edge of the right page, possibly a page number or a note.

卷之六

每月
○
修
元

卷之六

○百の

あかあか

水陸日

遠の

五

〇

○一日千言 七言千言

東地物字多極一日千言

同字多 七日千言

少既眼目 友才 廿日千言 ○同世月

次月千言

母
子
名
大
月

○ 禮
事
所
行

母
子
名
大
月

○

○

御書

〇

〇

毎月所入才 口九才
毎月所入才 口九才
毎月所入才 口九才

御書

〇

○ 万有の事の中にあつて
毎日の事一つ 遠くへ行つた一つ

書

○三休身のり 日おほ

東おあまのり

日三三 休身おほ

~~身~~おあまのり 福尼河息 一

身おあまのり

書

歌学大成

書物傳見一書

〇行原

歌学大成

○ 田舎の 暮しの こと
車におすまふは 海軍の 士の 心

海軍

心

御書

○初撰

淳平盛衰記七初撰迄奈良御門ノ從
跡ヨリ始テ延喜天曆以來急雨境ヲ
穿タズ秋ノ月枝ヲ暗ク其御山ニハ
初撰アハル今ニタエズ
小虫眼月ノ初撰故ノ言

御書

御書

○家尊

祭主輔祀尊子夫之のちをひみる
と文も此おれの家尊と云ふ
乙卯子つゝいり云

御書

子

歌
集
大
藏

○ 昔もむ部の
とあをすき 曰る才

歌
集
大
藏

敬
字
紙
紙

每
月
初
十
日
○
白
氏
父
長
女
由
氏
氏

敬
字
紙
紙

御書

○ 白表紙
東外 乃 湖島 口

御書

敬子大誠

毎日の
○ 読書の
進捗
を
記す

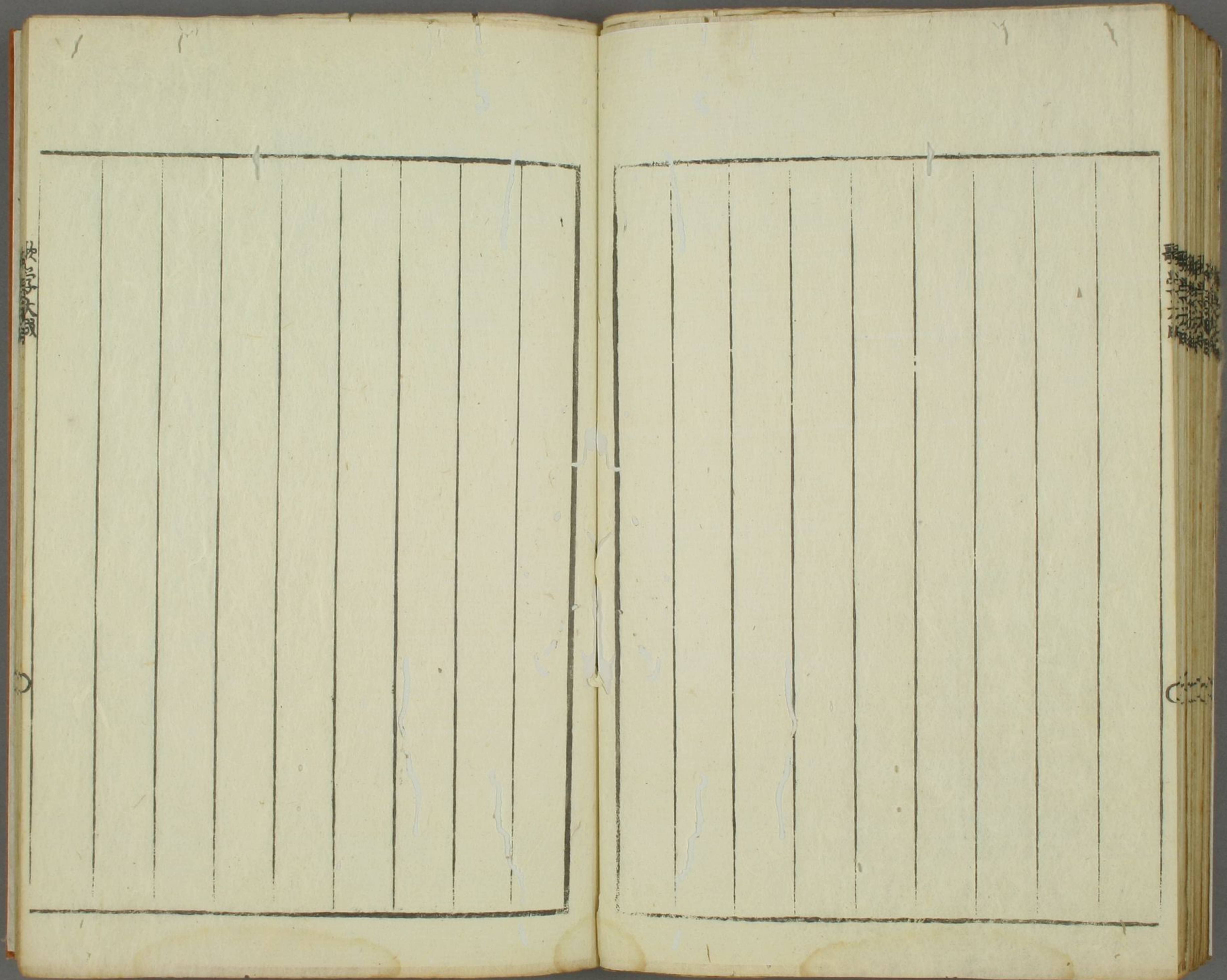
敬子大誠

敬子大誠

○ 敬の字ふりかへりぬ
水柱眼目 二丁カウ

敬字大藏

○返歌各歌和歌之二
日本從生極身記行基傳子善房傳
曰云「曼國聖者即各歌云云」



Handwritten text in the left margin, possibly a page number or title, written vertically.

Handwritten text in the right margin, possibly a page number or title, written vertically.

Small handwritten mark or symbol in the left margin.

Small handwritten mark or symbol in the right margin.

〇人のあひまゝ

祭主軸祝賀亭子わがめいんまをうりめい
まうんえきしるまふふまふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

祭主軸祝賀亭子

祭主軸祝賀亭子

祭主軸祝賀亭子

子あはれおのこころの
こころをうけとる
句をたれとあへる
君あはれおのこころ

○おはれおんい

隆也地のおき 俗れおん
とあはれおのこころ
おはれおん

毎月おはれ

小中月日 為教
おはれおん

○新ひま

大不

信更

月ひまのあつたなまあつた
あつたあつた

○いんか

孫の世の世に子孫の世に
やんといふ世に子孫の世に
あつたといふ世に子孫の世に

あつたといふ世に子孫の世に
あつたといふ世に子孫の世に
あつたといふ世に子孫の世に

口世

毎日
一六九ノ七

快学大綱

○ 新文 ~~の~~ よむ可也

海平造嘉記共 忠造 親ヲ人ノ流
習ブヤクセケリ只言辱ノ我ヲ道
ノミナラズ新嘉代ノ面目ヲ施ス

新嘉代

○和歌山

後世継承の
二白河院
寺東
の
あり
は
なり
わ
る
お
も
い
せ
る
と
い
ふ

和歌山

○ 己亥一二月の事
 瑞世の事 本子に後之
 といふとさくもの事 見るか
 少くおしげふさける事 見るか
 いくちか 擬作とみせし
 ゆるけらるや 家算 教
 事 なる事 ける事 なる事
 ありかたの事 なる事

大正十一年

大正十一年

○ 岩田 登 初 年 記 云 云
東 海 道 中 津 野 村 出 立 所
二 町 目 録 一 冊 あり

東 海 道 中 津 野 村 出 立 所

○ 弘明寺
教部 孫尼 河見 三才

長学大綱

○まのりも好てがけ。しよすあや

るまーきー

毎月おま

水程那月おまの好いあり

英字本紙

毎日の生活

毎日の生活

〇生活日記

毎日の生活

毎日の生活

第...卷

...

二月廿二日
...

毎
日
所
事

毎
日
所
事

一
二
三

○
三
の
竹
枝
の
事

毎
日
所
事

○

學問大綱

〇

〇 意の月
あはれまゝに
あはれまゝに

あはれまゝに
あはれまゝに

あはれまゝに

あはれまゝに

あはれまゝに

學問大綱

○割の計
東地所あるナカ丁ク

東地所あるナカ丁ク

東地所あるナカ丁ク

〇見拉の記
毎月

女中長

...

史記大綱

○子の病を
毎日かす

史記大綱

毎月所書
○子のちよひの月後

史記

史記

史記

卷之六

○ 豫 証

与 初 初 末 多 端 少 廿 九 才 疑 利

又 廿 三 才

末 院 廿 五 才

尋常丸

○短冊色紙

○ 淺黄三才 画管 六三 齋 部 時

○ 栗林 卯 木 檜 乃 の よ り 三

○ 門 早 七 才 檜 乃 の よ り

○ 小 槌 雁 日 九 才

尋常丸

皇
清
大
正
十
年

○
物
科
早
十
才
小
長
服
同
才

皇
清
大
正
十
年

○三年己卯
東海御守の世に

東海御守

東海御守

新編歌物誌

新編歌物誌

8 m

Wyer River

Wyer River

Wyer River

